

# 「誕生日」を考える

1年に1度、誰にでもやってくる人生の節目のひとつである誕生日。その意味をあらためて考えてみます。



# 誕生日にプレゼントを ゲットする？

「私ね、今度の誕生日に新しいゲームソフトを買ってもらえるの！」

「やったね！ 私も去年の誕生日は携帯電話を買ってもらったでしょ。だから今年にはパソコンをゲットしようかな」

学校からの帰路なのでしよう。二人の女子中学生とすれ違い越しに、そんな会話が聞こえてきました。

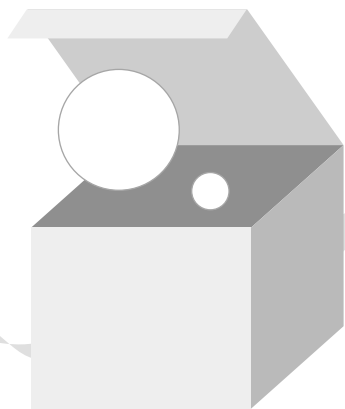
誕生日は、一年に一度、誰にでもめぐってくる人生の記念日の一つです。家族や友だちから誕生の祝福を受けることは、いくつになってもうれしいものです。子どものころは、誕生会や誕生日プ

レゼントが喜びをいっそう大きくしてくれます。

ところが、誕生会やプレゼントがあま

りに盛大に、そして豪華になりすぎるあまり、祝福を受けるほうも送るほうも、誕生日の意味について考えを深めることが薄れてきてはいないでしょうか。

今回は、誕生日の意味について考えてみたいと思います。



# 「数え年」に 込められた意味

ところで、私たちは年齢を数えるとき、ほとんどの場合、満年齢を使いますが、「数え年」という方法もあります。満年齢は、生まれた時を0歳として、

誕生日がくると一つ年を加える数え方で  
す。

これに対して、「数え年」は、生まれた時を一歳と数え、そのあとは正月を迎えるたびに一つ年を加えていく数え方で  
す。

「数え年」では、なぜ、生まれた時点で一歳と数えるのでしょうか。

新しい命がお母さんのおなかに宿り、赤ちゃんは「十月十日」を、その中で過ごすといわれます。実際には二百七十日前後ですが、生命の誕生と同時に、すでにお母さんのおなかの中で人間として育てられている、という考え方から、生まれた時は一歳と数えるのです。

また日本では、古来よりお正月になると歳神様をお迎えして神様の御霊をいただくことよって、一つ年をとるといって考え方をしてきました。神様から命をいただいて、一年を感謝して送るという生き方をしてきたのです。

亡くなった人の年を表すのに、多くの場合、「享年」という言葉を使います。こ



これは「天から享けた年」の意味です（『広辞苑』）。この場合も、数え年をあてることになっています。

「数え年」は、今日では、しんじ神事やぶつじ仏事な

どでしか使いませんが、私たちが「いち」をどのように考えるかという意味では、「数え年」という数え方も、なかなか深みがあるのではないのでしょうか。

※神事—神を祭る儀礼・行事 ※仏事—仏教の儀式。法事。

# 「かみさまのち」

私たちが今日生きている、生を享けているのは、親の存在があつてのことです。親がいなければ、私たちは生まれてくることができません。

次のような作文があります。

かみさまのち

坂井百合奈（7歳、新潟県新潟市）

わたしには五さいと一さいの弟がいます。五さいの弟はやすのり、一さいの弟はとしのりと言います。

でも、今から七年まえのわたしが生ま

れた日に、もし、おかあさんがゆけつをしていなければ、わたしはやすのりにも、としのりにも、おかあさんにも二どとあうことはできませんで

した。

一九九五年三月十七日、ごご二時二十二分にわたしは生まれました。わたしが生まれてすぐあと、おかあさんは「しかしゆっけつ」というものになって、ち

がとまらなくなりまし

た。でも、すぐにゆけ

つをしてもらいまし

た。そして、たすかる

ことができました。

もし、あの日、その

ままおかあさんがしん



かみさまのち  
坂井百合奈



でしまっていたら、わたしはおかあさんの顔をしらずにいたとおもいます。今、おかあさんや、やすのりや、としのりが生きていられるのは、しらないだけれがけんけつしてくれたおかげです。

おかあさんの体の中には、かみさまのようなやさしい人のちがながれているのだとおもいます。

「二人ぶん生きないと、ばちがあたるね」とおかあさんは言います。わたしもおかあさんのように、いのちを大切にしてください。これからも生きていきたいです。

(文部科学省主催「第十四回全国生涯学習フェスティバル・まなびピア石川2002」参加事業「心のきずなエッセイ応募」の作品集——『心のきずなエッセイ作品集』モラロジー研究所刊(非売品)より)

# 命を継承する営み

坂井百合奈さんは、母親から自分が生まれたときのようすをどのような気持ちで聞いたのでしょうか。詳しい病状は分からないにしても、母親が苦勞し、命をかけて自分を生んでくれたことを感じたに違いありません。

もしものことが起こっていたとすると、母親はもちろん、自分のあとから生まれた弟たちとも出会うことがなかったという不安や不思議さ、そうならなかったことに対する安堵あんどと喜び、そして母親に輸血をしてくれた人への感謝の気持ち

などを通して、幼いながらも、命の尊さについて感じていることが分かります。

弛緩出血しじゆんしゅつけつは、子宮しきうの機能が低下している場合の出産時に

起こるとされています。また、出産前でも、妊娠中毒症にんしんちゆうどくしやうなどの症状が重くなる  
と、母子ともに危険になります。

今日のように、医療技術が発達して、危険を回避かいひすることができるようになって



でも、命を継承するための出産という営みは、母体も胎児も常に大きなリスクを伴って行われることは、昔も今も変わりありません。

薬師寺の管主だった高田好胤さんは、著書『母・父母恩重経を語る』の中で、次のような歌を紹介しています。

諸人よ 思い知れかし 己が身の

誕生の日は 母苦難の日

(詠み人知らず)

私たちが生まれた日は、お母さんが大変な苦勞をした日であり、自分の命と引きかえる覚悟をもって出産に臨んだことを、あらためて見つめなおしたいものです。





# 喜びと感謝—— 赤ちゃんは35億歳

ました。皇太子殿下が、そおつと雅子妃殿下の肩に手を置かれて気づかっけていらつしやる御姿を拝見いたしました。愛子様  
様が御誕生するまでの、いろいろ

ろの思いを感じさせて頂きました。

私は子ども二人を授かりました。長男

のときは、つわりがひどく、二か月間入院

しました。流産の可能性があり、手術を

行いました。その後も三度の入院を繰

り返したのです。それ

でも出産予定の三週間

前に破水をしてしまいました。

ました。

〃私の命を引きかえ

に、子どもの命を助け

てください。私はどう

母親は、どれほどお産で苦勞をして  
も、生まれてくる子どもを恨むことなど

ありません。それどころか、母親としての

喜びと感謝を、わが子に対して抱きます。

次に紹介するのは、お母さんの作文で

す。

「生まれて来てくれてありがとう」

金谷朝美（48歳、石川県小松市）

「生まれて来てくれてありがとう」

敬宮愛子様としのみまひこが誕生されました会見の時、

雅子妃殿下まさこひでんかは言葉を詰まらせて話をされ



「おつかれい  
金」

なつてもいいのです」と神仏に祈りました。おかげさまで無事に出産できました。

産声うぶごえを聞いた時、病院の方々に感謝し、そして生まれてきた子どもに、「生まれて来てくれて、ありがとう」と声をかけました。(下略)

(前掲『心のきずなエッセイ作品集』より)

金谷さんの息子さんも、今では二十一歳になりました。ときどき反抗して、親をてこずらせることもあるようです。しかし、そんなときにこそ大事なことがあると、金谷さんは作文を次のように締めくくっています。

「今一度、思い出さないといけないと思います。〃生まれて来てくれて、ありがとう

う〃この言葉を！」と。

自分の命と引きかえる覚悟で生んだ子ども、その成長とともに自我じがが芽生めえてくると、親とぶつかるようになってきます。それ自体は健全な成長の姿です。しかし、親子の間で断絶が起こつたり、家庭に温かさがなくなつてくると、「私なんか生まれてこなければよかった」「あなたなんか生まなければよかった」などという、とげとげしい親子関係になつてしまうことがあります。

そうしたときには、もう一度、原点に戻つて、生命誕生の神秘しんぴとか、命の尊さや親と子のつながりというものを、問い直してみてはいかがでしょう。

誕生日は、そのための最適な機会といえます。

# 大自然に 生かされて いる命

遺伝子研究の第一人者として知られる  
筑波大学名誉教授の村上和雄氏は、「赤  
ちゃんは三十五億歳」とおっしゃって  
います。

——受精卵から十月十日の間に、三兆  
個とか四兆個の細胞の見事な赤ちゃんとな  
るあの業は、人間の思いや努力だけで

できるものではありません。十月十日の  
間に、生き物の進化のドラマを再現し、  
赤ちゃんになっていくのです。(中略)  
私は、地球生命でいうと、赤ちゃんとい  
うのは生まれたときに、もうすでに三  
十五億歳だと言っています。三十五億年  
かけて、地球が、大自然が丹精込めてつ  
くり上げた結晶が赤ちゃんなのです——



また村上氏は、かつて、アメリカのシュワイカートという宇宙飛行士と対談した中で、いちばん興味深かったというエピソードについて語っています。

シュワイカートは、アポロ九号に乗って地球を飛び出し、人類がまだ月に行く前に宇宙遊泳に成功した人です。彼の宇宙遊泳の姿を、船長がカメラで撮影していましたが、途中でカメラが故障したために、彼はしばらくすることがなくなりました。

ところがシュワイカートは、そのおかげでゆつくりと地球を見ることができたのです。地球の外の世界は「死の世界」です。そこから眺めて、地球の美しさを実感したことはもちろん、地球が「生きている」と感じたのです。

「あそこに水と空気と太陽の恵みがちやうどうまい具合に集まって、その中に生き物が生まれた。その命と自分はずながっている」

そんな思いが湧いてきたのです。彼は地球に恋をし、感動して帰ってきました。地球に戻った彼は、「カメラが故障したせいで失業した私は、宇宙での失業者第一号だ」と冗談に話していたのですが、その後、彼は詩人に変身したのです。

村上氏は次のように述べています。

——私は宇宙に行ったことはありませんが、細胞の中の遺伝子の世界に入ってみると、細胞一つといえども宇宙に匹敵する秘密が隠されています。マイクロとマクロで違いますが、そこに見るものは、



要するに命のすばらしさ、偉大さ、そして有り難さなのです。

「有り難い」という意味は、めったにな  
い存在ということですが、宇宙で見る

と、それは地球であり、私たちの命だ  
ということ。

ですから、自分の力で生きている人  
ど一人もいないのです。人間は水がな  
ければ、空気がなければ、地球がな  
ければ、太陽がなければ生きていら  
れません。植物や動物、ましてや自  
分以外の人々がいなければ、人間は  
生きていけないのです。みんな、そ  
のような大自然のおかげで生かさ  
れているわけです——

—— そういう意味で、私たちの命や  
体は、大自然からの贈り物であり、  
借り物であって、生きているとい  
うことは、それほどすばらしいこ  
とであり、有り難いことなのです——

〔村上和雄著『いのちの素晴らしさ』〈生涯学習  
ブックレット〉モラロジー研究所刊より〕

# つながりの中の「今」を生きる

親が子を生み育てるといふことは、このような大宇宙の現象、大自然の法則ほうそくになつてゐることです。そして、この営みは、私たちの祖先からずっと途切とぎれることなく繰り返されて続いてきたのです。

このように考えていくと、親や祖父母はもちろん、顔も知らない多くの祖先に

対しても、命のつながりとそのための苦勞・努力に対して、畏敬いけいの念や感謝の気持ちが湧いてくるのではないでしょうか。

私たちはふつう、自分が誕生したときのことには覚えていません。ですから、お母さんは、子どもが生まれたときのように



すや気持ち、子どもたちに伝えてやってほしいものです。お父さんや他の人が伝えてやってもよいのです。

子どもは、自分の生まれたときの話を聞くことによって、親や祖父母、さらに祖先とのつながりを確かめ、深めていくことができます。そして、つながりの中で、今の自分が生きていることに気づいていくでしょう。

親がすでに他界たかいされている方は、親の笑顔えがおを心に浮かべ、生前の親の思いに触れてみてはいかががでしょう。

作家の吉川英治よしかわえいじさんは、晩年の講演の中で、ご両親のことを、「もう両親はおらぬが、私は両親に会おうと思えばいつでも会えるのです。それは私の脈みやくをみるのです。私のからだの中に、いつでも両親

は生きていてくれるのですから、誰でも両親に会おうと思えば、いつでも会えるのです」と回想しています。

私たちのからだの中に、一度も途切れることなく脈々として生き続けている両親や先祖との「つながり」というものを、あらためて考えてみることで、誕生日の大切な意味といえるのではないのでしょうか。

\* \* \*

誕生日は、一年に一度、誰にでもやってくる人生の節目のひとつです。

周囲からの祝福を受けると同時に、授かった命の意味について思いを深め、これからの人生をよりよく生きていくことを誓ちかう日にしていききたいものです。